

COSMETIC FOR REMOVING KERATOTIC PLUG

Publication number: JP2002241260
Publication date: 2002-08-28
Inventor: NAKAMURA ARATA; YABU SUEHITO
Applicant: SHISEIDO CO LTD
Classification:
- **international:** (IPC1-7): A61K7/50
- **European:**
Application number: JP20010042430 20010219
Priority number(s): JP20010042430 20010219

Report a data error here

Abstract of JP2002241260

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a simple method for removing keratotic plugs without pain.

SOLUTION: This cosmetic for removing the keratotic plugs is characterized as comprising >=50 mass% of an oil having 5-80 mPa.s/25 deg.C viscosity.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-241260
(P2002-241260A)

(43)公開日 平成14年8月28日 (2002.8.28)

(51)Int.Cl.
A 6 1 K 7/50

識別記号

F I
A 6 1 K 7/50

テーマコード(参考)
4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全4頁)

(21)出願番号 特願2001-42430(P2001-42430)

(22)出願日 平成13年2月19日 (2001.2.19)

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 中村 新

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)

内

(72)発明者 蔡 季仁

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)

内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 角栓除去用化粧料

(57)【要約】

【課題】簡便かつ苦痛を伴わない角栓除去方法を提供する。

【解決手段】粘度が5~80mPa·s/25°Cの油分を50質量%以上含有することを特徴とする角栓除去用化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】粘度が5～80mPa・s/25℃の油分を50質量%以上含有することを特徴とする角栓除去用化粧料。

【請求項2】化粧料全体の粘度が10～70mPa・s/25℃であることを特徴とする請求項1記載の角栓除去用化粧料

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、角栓（毛穴につまつた汚れ）除去用化粧料に関する。更に詳しくは、低粘度油分を特定の割合で配合することにより、毛穴の中の汚れまで除去することが可能な油状液体化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】「角栓」とは、毛穴の中につまつた皮脂等の汚れをいい、皮膚表面の汚れに比べて除去しにくい。しかし、角栓をそのままにしておくと、ニキビや毛穴の黒ずみの原因となるため、その簡便な除去が望まれる。従来、角栓を除去する方法としては、テープ剤の貼付やパック剤の塗布が行われている。すなわち、テープ剤を皮膚に貼付、あるいはパック剤で毛穴を包み込んで、これらに角栓を吸着させた後、テープ剤やパック剤を剥離して、同時に角栓も強引に引き抜くという方法である。しかしながら、これららの方法では、テープ剤やパック剤の剥離時に痛みを感じたり、また皮膚に対する刺激が強いため、肌に赤みを残したり、出血を伴うといった問題点があった。

【0003】

【課題を解決するための手段】本発明者は、かかる従来技術の問題点に鑑み、鋭意検討した結果、粘度が5～80mPa・s/25℃の油分を50質量%以上配合した化粧料を用いて、皮膚をマッサージすると、皮膚に刺激を与えることなく、角栓を毛穴から効果的に浮き出させて除去しうることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0004】すなわち、本発明は、粘度が5～80mPa・s/25℃の油分を50質量%以上含有することを特徴とする角栓除去用化粧料に関する。また、本発明は、化粧料全体の粘度が10～70mPa・s/25℃であることを特徴とする前記角栓除去用化粧料に関する

【0005】以下、本発明の構成について述べる。本発明に用いられる油分は、粘度が5～80mPa・s/25℃（以下、mPa・s/25℃を単にmPa・sと記載する。）の油分でなければならず、特に6～50mPa・sの油分がより好適である。粘度が5mPa・s未満では化粧料としての使用性に劣り、粘度が80mPa・sを超えると角栓除去効果が不十分になるからである。

【0006】本発明における粘度とは、单一円筒型回転

粘度計を用いて測定される25℃における粘度をいう。なお、本発明における粘度の測定にあたっては、上記粘度計の1つである、芝浦システム（株）製「DIGITAL VIS METRON VDA（ローテNo.1）」を使用し、回転数12r.p.m、60secの条件で測定した。

【0007】本発明に用いられる粘度が5～80mPa・sの油分としては、たとえば、流動パラフィン（粘度24mPa・s、47mPa・s）、合成パラフィン（粘度30mPa・s）、スクワラン（粘度23mPa・s）オクタン酸セチル（粘度17mPa・s）、イソプロピルミリストート（粘度32mPa・s）、トリオクタン酸グリセリン（粘度35mPa・s）、イソステアリン酸（粘度51mPa・s）、オレイルアルコール（粘度54mPa・s）、オリーブオイル（粘度72mPa・s）、ジメチコーン（粘度8mPa・s）、シクロメチコーン（粘度7mPa・s）等があげられる。

【0008】本発明にかかる角栓除去用化粧料において、前記油分は、化粧料全量に対して、50質量%以上（以下質量%を単に%と示す。）配合される。50%未満では十分な角栓除去効果が得られないからである。

【0009】また、前記油分を配合した結果、本発明における角栓除去用化粧料全体の粘度は10～70mPa・sとなることが好ましい。化粧料全体の粘度が高すぎると、化粧料が十分毛穴に入り込むことができず、角栓除去効果が悪くなるからである。

【0010】本発明において、角栓除去効果は配合される油分の粘度の影響を強く受け、油分の構造による影響は小さい。また、化粧料への界面活性剤や水の配合も、角栓除去効果に殆ど影響を与えない。これは、角栓の除去には、化粧料が毛穴と角栓の間の隙間に入り込み、角栓となじむことが、最も重要であるためと考えられる。

【0011】本発明にかかる角栓除去用化粧料には、必須成分である前記油分のほかに、界面活性剤、水、エタノール、高価アルコール、香料、酸化防止剤、紫外線吸収剤、色剤、皮膚栄養剤など、通常化粧料に用いられるその他の成分を、本発明の目的を損なわない範囲で、適宜適量配合することができる。

【0012】次に、試験例を挙げて本発明の効果について詳細に説明する。なお、本発明はこれらの試験例に限定されるものではない。

【0013】試験例：クレンジングオイル
表1に示す処方で、常法に従いクレンジングオイルを調製し、角栓除去効果について、官能評価と実測評価を行った。結果を合わせて表1に示す。

【0014】試験方法：顔面に角栓を多量に有していると自己申告したパネル48人を3班に分け、10日おきに3回、試料（クレンジングオイル）を使用して10分間マッサージを行ってもらった。各回毎に以下に記載する評価を行い、3回の平均値により最終評価を行った。

【0015】官能評価：角栓除去効果感

角栓除去効果感として、マッサージ中の「角栓が指先にあたる感覚」について評価してもらった。表中の数字(%)は「角栓が指先にあたる感覚を感じた」と答えたパネルの割合を表す。

【0016】実測評価：角栓の除去数

クレンジングオイルでマッサージ後の被験者の皮膚に、*

* スライドグラス(76×26mm)を10秒間押しあてて、毛穴から浮き出された角栓を移し取った後、目視によりスライドグラス上の角栓の数を数えた。

【0017】

【表1】

(配合量は質量%)

実施例No.	1	2	3	4	1	2	3
比較例No.							
テトラオクタン酸ベンタエリスリチル(粘度105mPa·s)	40	—	—	—	99	—	50
流動パラフィン(粘度24mPa·s)	50	40	50	20	—	20	—
油分 オクタン酸セチル(粘度17mPa·s)	—	—	30	—	—	—	30
デカメチルシクロヘキサン(粘度7mPa·s)	—	50	—	70	—	—	—
オクタメチルシクロヘキサン(粘度7mPa·s)	—	—	—	—	—	70	—
界面活性剤 ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール	10	—	10	—	—	—	10
ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール	—	10	10	—	—	—	10
モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール	—	—	—	10	—	10	—
香料	—	—	—	—	1	—	—
評価結果 化粧料の粘度(mPa·s)	82.0	19.8	28.3	11.6	105.0	8.2	71.5
角栓の除去数(個/1人・1回)	20	23	25	2	1	4	8
角栓除去効果(%)	81	100	100	100	12	38	25

【0018】表1の結果から明らかのように、本発明にかかるクレンジングオイルは優れた角栓除去効果を有することが確認された。

【0019】次に、本発明のその他の実施例について記※

- (1) 流動パラフィン(粘度: 24 mPa·s) 77.0
- (2) メチルフェニルポリシロキサン(粘度: 17 mPa·s) 2.0
- (3) オクタン酸セチル(粘度: 17 mPa·s) 10.0
- (4) イソステアリン酸(粘度: 51 mPa·s) 1.0
- (5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 12) 4.0
- (6) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 8) 2.0
- (7) モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 10) 2.0
- (8) d-δ-トコフェロール 適量
- (9) オウバクエキス 適量
- (10) 精製水 残余

【0021】実施例6: クレンジングオイル(質量%)

- (1) 流動パラフィン(粘度: 24 mPa·s) 27.0
- (2) メチルフェニルポリシロキサン(粘度: 17 mPa·s) 5.0
- (3) オクタン酸セチル(粘度: 17 mPa·s) 20.0
- (4) オリーブ油(粘度: 72.5 mPa·s) 30.0
- (5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 12) 7.0
- (5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 8) 3.0
- (6) モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE 10) 5.0
- (7) アルコール 適量
- (8) d-δ-トコフェロール 適量
- (9) 精製水 残余

【0022】

となく、効果的に皮膚の角栓を除去することができる。

【発明の効果】本発明によれば、皮膚に刺激を与えるこ 50

フロントページの続き

F ターム(参考) 4C083 AA112 AA122 AC022 AC102
AC352 AC392 AC402 AD152
AD172 AD662 BB13 CC02
CC06 CC23 DD23 EE07 EE10
EE12